

(約10mmのスペース)

土木学会 景観・デザイン研究論文集 論文執筆要領

Guideline for Journal Manuscript Preparation

(約15mmのスペース)

土木 太郎¹・四谷 花子²

(約5mmのスペース)

¹正会員 土木学会 (〒160-0004 東京都新宿区四谷一丁目)

E-mail: doboku@jsce.ac.jp

²正会員 工博 土木大学工学部土木工学科 (〒160-0004 東京都新宿区四谷一丁目)

E-mail: doboku@jsce.ac.jp

(約10mmのスペース)

この執筆要領は論文集 No. 2 用のものです。
No. 3 以降には用いないでください。

The present file has been made as a print sample of the manuscript. The text of this file describes, in the camera-ready manuscript style, instructions for preparing manuscripts, thus allowing you to prepare your own manuscript just by replacing paragraphs and/or figures of the present file with your own, by CUT & PASTE manipulations.

Both left and right margins for your ABSTRACT should be set 1 cm wider than those for the text of the article. The font used in the ABSTRACT is Times-Roman, 10pt, or equivalent. The length of the ABSTRACT should be within 300 words.

(約5mmのスペース)

Key Words : *times, italic, 10pt, one blank line below abstract, indent if key words exceed one line*

(約10mmのスペース)

1. 基本的事項

(1) 原稿体裁と分量

- ・原稿用紙サイズはA 4サイズとする。
- ・マージンは上辺19mm, 下辺24mm, 左右とも20mmとする。
- ・冒頭部を除き, 基本的に52字×48行の2段組(片段25字+段間2字(約6mm)+片段25字)とする。
- ・使用言語は日本語もしくは英語とする。
- ・ワープロ・タイプの原稿を原則とし, 本文・表における文字の手書きは認めない(スケッチやスケッチ等の一部に手書き文字が含まれる図をスキャナ入力にて使用することは構わない)。
- ・原稿はモノクロ原稿を基本とする。ただし出版費用増加分の著者負担を前提にカラー原稿も受理・掲載する。
- ・原稿は図表を含め6頁以上12頁以内とする。
- ・全ページにわたりページ番号は付さない。
- ・投稿はPDFによるWEB投稿に限る。

2. 原稿構成と書き方

(1) タイトルページ

タイトル, 著者, 所属, 連絡先住所, E-mailアドレス, アブストラクト, キーワードは横1段に収める。タイト

ル部分の左右のマージンは本文の左右のマージンよりもそれぞれ10mmずつ大きくとる。

a) タイトル

タイトルについて, 上部マージンより約10mmのスペースをとり, 配置はセンタリングとする。和文タイトルを記載後, 改行し続けて英文タイトルを記入する。フォントは和文はゴシック体20pt, 英文はTimes14ptとする。

b) 著者名

タイトルより約15mmのスペースをとり, 明朝体12ptフォント, センタリングで配置する。連名者がいる場合は「・」により区切り, 著者名と以下の所属とを肩付き数字で対応付ける。

c) 所属

所属の部分は, 著者名より約5mmのスペースをとり, 土木学会会員区分, 学位, 所属機関名, 住所を併記する(住所は括弧でくる)。続けて改行しE-mailアドレスを記入する。フォントは明朝体9pt, センタリングで配置する。連名者がいる場合は1名分ずつ改行して記載し, 著者名と肩付き数字で対応付ける。

d) アブストラクト

アブストラクトは本文の言語によらず英文300単語(上限)とする。所属より約10mmのスペースをとり, Times10pt, センタリングで配置する。

e) キーワード

論文に深く関わる用語を2行以内、英語で記載する。アブストラクトより約5mmのスペースをあけ、Times10pt、イタリック体、左寄せで配置する。'Key Words : 'という文字はボールドイタリック体とする。

(2) 本文

a) 配置・フォント

キーワードから約10mmのスペースをとり2段組の本文を書き出す。本文の文字は明朝体10ptフォントを用いる。

b) 脚注および注

脚注や注はできるだけ避け、本文中で説明するか、本文の流れと関係ない場合には付録として本文末尾におく。

c) 見出し

見出しは章、節、項の3段階とし、フォーマットは章[1. , 2. , 3. …], 節[(1), (2), (3) …], 項[a), b), c)]とする。スペースについては、章の見出しは上2行、下に1行あけるものとする。節の見出しは上のみ1行あけるものとする。項の見出しは上下にスペースは不要。フォントは章(11pt)、節(10pt)、項(10pt)ともにゴシック体とする。

d) 句読点

和文の場合でもカンマ「, 」とピリオド「. 」を用いる。句読点「、」「。」は使用しない。

(3) 数式および単位系

数式は本文と独立している場合でも文中に挿入されている場合でも同じ数式用のフォントを用いる。本文と独立した数式はセンタリングし、式番号は括弧書きで右詰とする。

単位は原則としてSI単位を使用する。

$$\text{(数式例)} \quad G = \sum_{n=0}^{\infty} b_n(t) \quad (1)$$

(4) 図表、写真

a) 図表の配置

原則として図、表、写真の横には本文テキストを組み込まない(1段もしくは2段の幅すべてのスペースを活用)。1頁すべてを1つの図表・写真で使用する場合、頁に対し横向きに配置するのも可。この場合キャプションも横向きにする。見開き両頁で合わせて見せるようなことは避ける(図-2)。

b) 写真について

画像形式データもしくはスキャナ入力したものを原稿中にレイアウトし貼り付ける。印刷したときに鮮明なものとなるか解像度に注意を要する(100万画素以上)。

表-1 表のキャプションは左寄せ、表上に配置する。長い時はインデントして折り返す。



図-1 図および写真のキャプションは左寄せ、図下に配置する。長い時はインデントして折り返す。

c) キャプション

図および写真の場合は、「図-1 Aに関する図」のように記載し、図-○の部分はゴシック体9pt、それ以外は明朝体9ptとする。配置は図もしくは写真の下でかつ左寄せとする。表についても同様に「表-1 Bに関する表」のように記載し、配置は表の上でかつ左寄せとする。

d) 引用および加筆

図、表、写真を他の著作物から引用する場合は出典を明記し、事前に原著者の了承を得ることが必要である。また引用図表に修正・加筆をした場合はその旨記載する。

(5) 参考文献の引用とリスト

a) 引用とリストの配置

参考文献は出現順に番号を振り、原稿末尾に結論から1行あけてリストとして示す。引用箇所ではその番号をこのように¹⁾右肩に右括弧付き数字で示す。

b) ホームページアドレスの扱い

参考文献は公開後に時間が経過してもたどれるものだけとする。したがってインターネット上のホームページや私信などを参考にした場合は文末の参考文献でなく本文中に示す。

c) リストのフォーマット

著者名、雑誌名(書名)、巻号、ページ、発行年の順

大きい図面・表・写真を使用する場合

この四角の領域で示されるような大きさの図面・表・写真を1頁全面に配置するのも可とする。頁に対し横向きに配置する場合はキャプションも横向きにする。見開き両頁で合わせて見せるようなことは避ける (図-2)。

図-2 大きい図面の配置について

に記載する。英文雑誌の氏名の書き方は、姓、イニシャルとする。著者数が多い場合でも全ての著者名を記載する（本文中での引用については第一著者のみを書き、あとを“ほか”もしくは“et al”などと省略しても構わない）。単行本の場合は、著者名、書名、ページ、発行所、発行年とする。英文の単行本の場合は、書名は各単語とも頭文字は大文字とする。雑誌名、書名はイタリック体にする。

d) 参考文献のフォント

「参考文献」の文字をゴシック体10ptで記載し、改行してからリストを配置する。日本語文献は明朝体9pt、英語文献はTimes9pt

(6) 謝辞について

謝辞は結論の後に1行空けて置く。見出しとコロンをゴシック体10ptで書き、その直後から明朝体10ptで文章を書き出す。

(7) 付録について

付録がある場合は謝辞と参考文献の間にそれぞれ一行のスペースを空けて配置する。「付録」の文字をゴシック体11ptとし、内容は10ptとする。

謝辞：本研究の資料調査において***氏には多大なご協力を頂いた。厚く謝意を表する。

付録

参考文献

- 1) 四谷太郎, 土木次郎：**に関する研究, 土木学会論文集, No. **/IV-**, pp. **-**, 2004
- 2) 四谷太郎, 土木次郎：**学（上）, pp. **-**, **書店, 2004
- 3) Yotsuya, T., Doboku, J.: A study on ***, *Journal of ****, Vol. *, pp. **-**, 2004
- 4) Yotsuya, T., Doboku, J.: *Handbook of Landscape Research*, pp. **-**, *** Press, New York, 2004